

大東支会通信

23.3 発信

☆☆ 平成 22 年度後半 事業報告 ☆☆

◆第 6 3 回 大東地区体育祭◆

日 時 平成 22 年 10 月 3 日 (日) 午前 8 時

場 所 大東中学校校庭

予報では午後雨が心配された天気も幸い体育日和となり、整然と張られた各分館のテントの下に選手を始め、子どもから高齢者まで多くの人々が集い、グラウンドで展開される競技を観戦。特に分館対抗種目では、全員が一丸となって声援を送ったり、ガッツポーズをとる等の盛り上がりが見られた。また、テントの外では、各分館との交流もあり、互いに親睦を深める良き場となった。

今回の大会では、綱引き競技で永年チャンピオンとして君臨してきた池辺分館が大塚新田分館に敗れ、チャンピオンの座を明け渡し・・・来年が楽しみな競技となりました。

表彰式終了後、全員対象の抽選会があり、多くの商品が当選者に手渡され成功裡の内に終了した。

分館対抗成績

優 勝	豊田本分館
準優勝	豊田町分館
第 3 位	大塚新田分館
応援賞	大袋分館

◆第 6 回 大東福祉チャリティーゴルフ大会◆



大会期日 平成 23 年 10 月 4 日 (月)

会 場 大宮国際カントリークラブ

競技方法 18 ホール新ペリア方式 (完全ホールアウト)

この大会は、スポーツを通じて地域の親睦を深めつつ「ひとり暮らし高齢者の集い・子どもサポート事業」等の社会福祉活動事業に寄与することを目的に、皆様の賛同を得て開催されています。

皆様から頂いた貴重なチャリティー及び広告協賛金は、パーティー会場で表彰式に先立ち、67万円の目録が参加者の拍手に包まれる中、内田博謙実行委員長から木村省三大東福祉協議会へ手渡れました。木村会長は「皆様から頂戴した貴重な浄財は、目的に合った地域社会福祉事業活動のために、皆様のご意見を拝聴し、会議に諮り有効に利用させてい

ただきます。今年度は、新事業の大東ふれあいマラソン&ウオークソン大会事業にも寄与させていただきます」とお礼を述べた。

大会には、67組251名のプレイヤーが参加して自慢の腕を競い合い、次の方々が入賞し、表彰されました。

《おめでとうございます》

☆総合の部

優勝 橋本民雄
準優勝 中村茂
第3位 増山栄一
ベストグロ賞 橋本民雄

☆女子の部

優勝 栗原光子
準優勝 鳥塚一枝
第3位 渥美千恵
ベストグロ賞 光圀真理子

☆ニアピン賞

しらさぎコース

4番 山田邦夫
7番 牛窪基夫

ひばりコース

5番 川野哲明
8番 松ヶ角悠司

せきれいコース

3番 森保行
6番 橋本光孝

ときコース

4番 矢澤晴美
5番 寺澤篤



*** 第10回 一人暮らし高齢者のつどい ***

～みんなで楽しく \ (^o^) / 過ごしましょう～

日時 平成22年10月20日(水)

場所 大東公民館

大東地区にお住まいで、70歳以上の一人暮らし高齢者の方93名を含む150余名が参加して開催されました。

午前中は、地域包括支援センター職員による日常生活での悩み事を題材とした講話を始め、当地区にお住いの翠嶺師匠の見事な手捌きによる手品と小江戸家連雀師匠の流暢な落語を楽しみました。

昼食後は、飛び入りの踊りや参加高齢者の方によるピアノ演奏が披露され、会場内が大きな拍手に包まれました。続いて数字を野菜にもじったビンゴゲームを行い、見事“ビンゴ”の方には自治会長が持ち寄った景品を自ら選んでお持ち帰りいただきました。

最後に、全員で昔懐かしい歌を合唱し、楽しんでいただいた集いが閉会した。



小江戸家連雀師匠の熱演



翠嶺師匠の鮮やかな手捌き



参加者のピアノ演奏

♥ 大東地区文化祭 ♥

日 時 平成22年10月23日(土)・24日(日)

場 所 大東公民館

会場には、書・絵画・写真・文芸作品・手工芸等が部門ごとに展示され、多くの皆様が作品の前で足を止め、鑑賞する姿が見られました。

また、イベントコーナーには、大東地区3小学校の児童の作品や『子ども生け花教室』の生徒による作品展示もあり、熱心に見入る父兄の姿もありました。

24日には芸能発表会が行われ、個人・クラブ・サークルなど芸能愛好家の皆様による民謡・民踊・ダンス・カラオケ・フラダンス・和太鼓等56演目が披露され、日頃の練習の成果を見事に発揮された熱演に観客も感動された様子でした。

また、玄関前ではバザーや包丁研ぎ、2階ではヘルスチェックサービスなども行われ、盛大な文化祭になりました。

■大東地区戦没者慰霊祭■

日 時 平成22年11月23日(火)

場 所 大東公民館

当日の朝は雨模様で、例年通り忠霊塔前で執り行うことが無理と判断し、急遽大東公民館2階会議室に設営いたしました。

ご遺族始め御来賓のご臨席を賜り、大東地区正副自治会長出席のもと、増形・白山神社 関山宮司様の修祓の儀及び斎主祝詞奏上・主催者祭文奏上・代表者による玉串奉奠等滞りなく進行し、しめやかに執り行われました。



関山宮司による修祓の儀



主催者あいさつ

◆大東地区消防特別点検・防災訓練◆

日 時 平成22年12月6日(日)
場 所 市立大東西中学校校庭
訓練種目 炊き出し訓練(薪で炊飯)・AED取扱訓練・簡易担架訓練・初期消火訓練
車椅子使用者の輸送訓練・起震車体験・はしご車試乗体験

地震などの災害が発生した場合「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯感をさらに強固にするためと、防災の必要性をご理解いただき「備えは常に」という気持ちを持つため、今年も大東地区消防団特別点検日に併せ『大東地区防災訓練』を実施しました。

当日は天候に恵まれ、ご来賓として川越市長(代理)はじめ川越市消防団団長、川越地区消防局局長、地元選出の県議会議員及び市議会議員をお迎えし、大東消防団、大東地区自主防災会連絡会、自治会連合会大東支会正副自治会長及び大東西中学校の生徒等総勢300名を超える方々が参加されました。

消防団の服装、規律及び機械器具点検、ポンプ操法の後、それぞれ自由に各訓練に参加したり、川越市保健推進員協議会大東支部の方々による血圧測定、体脂肪測定、体力測定などの健康チェックを受けました。

正午前、炊き出し訓練によりつくられたおにぎりとかめ味噌汁が参加者全員に配布され、無事終了しました。

なお、閉会式において次の方々が表彰されました。

嘗消防功労賞・・・・・・・・・・栗原健次 様 新井教郎 様

嘗自警隊永年勤続表彰・・・・・・・・・・第6分団 島村陽一 様

嘗ポンプ操法並びに機械器具優秀隊・・・・第10分団



機械器具点検



炊き出し訓練(薪で炊飯)



起震車(ナマズ号)体験

◆第1回大東ふれあいマラソン&ウォークソン大会◆

日 時 平成23年1月10日(月)成人の日
場 所 大東健康ふれあい広場・川越総合卸売市場及び周辺道路
主 催 自治会連合会大東支会
共 催 大東地区体育振興会
主 管 大東ふれあいマラソン&ウォークソン実行委員会
協 賛 大東地区地域子どもサポート委員会

世代間交流事業の一環として、地区民の親睦と健康増進を図るため、子どもから高齢者

まで幅広い年齢層の方々にご参加いただけるよう企画いたしました。

大会当日未明までの強風も治まり、初春の青空のもと開会式には出場選手を始め、ご来賓、ご家族、大会役員等およそ600名の方々が集いました。

大会は、「マラソン10km・5km・3km」「ウオークソン5km」で行われ、それぞれが選択種目完走を目指してコースに飛び出していく姿は頼もしく感じられました。出場者は、コース誘導員に見守られ、遠方に秩父連山や富士山の雄姿を見ながら土手を走り抜け、住宅地に入り沿道からの声援や山高太鼓の子どもたちの応援に励まされながらゴールし、ほぼ全員が完走されました。

閉会式に先立ち表彰式が行われ、種目ごとに1位から3位の方に大会主催者からメダルと記念品が贈られました。

閉会后、主催者側が用意した作りたての豚汁が参加した皆様に振る舞われ、広場に腰を下ろし、豚汁をすすりながら雑談するグループの輪があちらこちらに見られ、目的とおりの有意義な大会となりました。大会開催中、地区の皆様、企業関係者の皆様には交通規制にご協力いただきありがとうございました。

なお、本大会は、大東福祉チャリティーゴルフ基金・自治会連合会大東支会・大東地区地域子どもサポート委員会からの助成金及び自治連からの地域活動支援費及び参加者からの参加費（100円、ただし小学生は除く）をもって運営しました。

競技参加者 387名	種 目 別	10km	34名	ウオークソン5km	181名
		マラソン 5km	35名		
		3km	137名		



大会開会式



山高子供太鼓の皆様による応援



3kmのスタート



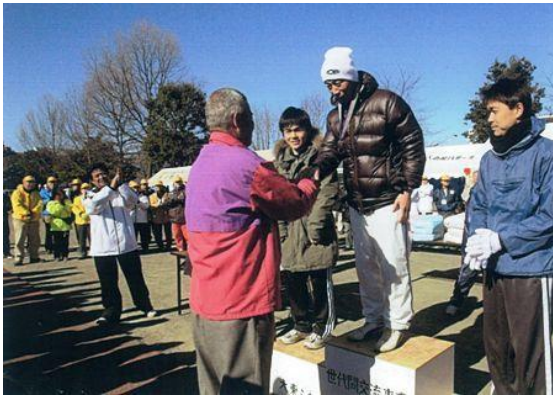
ウオークソンのスタート



5 kmのスタート



力を合わせて豚汁作り



10 kmの表彰式“おめでとう”



熱々の豚汁“召し上がれ”

♣福祉懇談会♣

日時 平成23年2月17日(木)
場所 大東公民館2F会議室

大東地区民生委員児童委員協議会との共催で、講師をお招きし講演していただきました。

- ①武蔵野小学校 富田記久子校長先生
「最近の子どもたちの様子」について
- ②大東地区自主防災会連絡会 吉田泰男会長
「災害時要援護者の避難支援体制づくり」について
- ③川越市防災危機管理課 西島昭善課長・粟生田晃一主査
「災害時要援護者の把握と避難支援の取組に向けて」
- ④川越市社会福祉協議会 柴 明孝様・斎藤恵美様
「地域福祉の推進」

この研修により、いつ起こるか分からない災害に備えた日頃からの防災意識・危機意識の高揚が図られました。

